

UNITAR Hiroshima, June 26, 2009

Kiyoshi Kurokawa, MD, MACP, FRCP

1. Status of the World
 - Hot, Flat and Crowded- Thomas Friedman
 - Economic downturn triggered by financial crisis
 - Fareed Zakaria, Jacques Atalli

2. Past 20 years
 - Global market economy
 - Interconnected world; www

3. Keywords: Heterogeneity, Diversity, and Collaboration
 - Intl vs Global
 - Human resource vs human capital
 - Cluster, Core competence
 - Innovation

 - MDGs
 - 2C + 3F, water, natural resource
 - Increased human population and activities

4. Global movements; see my speech at G8+5 Environment Ministers' meeting

5. Japan issues in Changing World Affairs
 - Growing new economies
 - Japan visible?
 - Leadership, Mind-set

6. Recommendations
 - Student exchange programs
 - Leadership programs; global and local
 - Womenomics

7. HIROSHIMA

要訳

黒川博士“重層的頭脳の循環”の促進: 能力開発における科学技術革新のパートナーシップの役割

2009年4月30日 – 日本国内閣府の元科学補佐であり科学技術革新の日本人の先進的擁護者である黒川清博士は、世界銀行において政府関係者、学会、民間からの専門家らと持続可能な開発のための科学技術革新能力開発と世界銀行グループの戦略的パートナーシップの調停における役割の可能性について議論しました。科学技術革新パートナーシップ (STI partnerships) は貧困の削減、ミレニアム開発の目標達成、富の生産、より収入の高い仕事の創出と持続可能な開発の育成などをするために設立されました。

科学技術革新パートナーシップ・プログラムの革新的な提案には次の事柄が含まれます。: 熟練した教授が地域の科学者コミュニティの能力開発に集中するために意義の有る時間を開発途上国において過ごせる“プロフェッサー・コープ”と呼ばれる客員教授プログラム: 地域の投機者プログラムまたは“ベンチャー・コープ” – ビジネスの革新者と起業家が地域の科学的達成に基づく新しい製品とサービスの革新のために科学と金融界の橋渡しをします。

“高等教育のための多くのネットワークとパートナーシップが現存します。そして、開発途上国におけるトレーニングは持続可能な科学技術革新パートナーシップを提供するためのプラットフォームとして使用されるかもしれません。”

“これは世界銀行にとって可能性のあるエキサイティングな新しい分野だ。”と世界銀行の教育のための人間開発ディレクターのエリザベス・キング氏は発言されました。

それらイニシアティブの全ては一般的なテーマを循環します。: 科学技術革新能力の強化が必要な開発途上国、クライアントと豊富な技術的専門知識と人材開発の優れた能力を持っている南北両地域における開発パートナーからの能力生産と知識の普及など。包括的な問題はそれらパートナーシップがどのように企画し遂行され、またそれにより開発途上国が科学技術革新能力を造り持続させることと開発の必要性の高いプライオリティーについて言及する必要があるということです。

クリスティアン・デロヴォア氏は世界銀行知識戦略グループ所長は新しい知識一覧表の開発を率いており、戦略的優先事項、洞察力のある知識の意思決定における重要な役割を主張し、また世界銀行グループの知識戦略における以下の4つの科学技術革新関連構成要素を強調しました。

- 行動力: 地域に渡る世界的優秀性および革新的な知識プロダクトと加盟国への解決法を提供するためのセクターとしての世界銀行グループ
- 強化事項、南と南の協力と対話における戦略的強調と共に外部ネットワークによる世界銀行グループのパートナーシップの強化
- 地域の起業家精神や相乗効果と新しいパートナーシップ開発のための知識ネットワークなどを開放する。
- 政策論議のための世界的知識プラットフォームとしての世界銀行のポジション

中心的なワークプログラムの一環として、the STI Global Expert Team (GET 科学技術革新の世界専門家チーム)、世界銀行グループの新しい GET10 チームの1つは STI の持続可能な開発のための能力開発パートナーシップについてのグローバルフォーラムを12月半ばに世界銀行にて開催します。このフォーラムでは日本、アメリカとその他の国やパートナーに独自のパートナーシップを設立する他のドナーを援助するための新しいアプローチや最新のイニシアチブと紹介するたの参加者間の分野横断的アイデア共有のための最高の機会を提供します。

4月30日の議論への参加はアメリカ国務省科学技術アドバイザーのニナ・フェドロフ博士や元米国国際開発庁長官であり公共基金・土地払い下げの大学協会の現会長であるペーター・マックファーソン氏などを含む利害関係者の発展のための科学技術への多くの鍵となりました。

この20から為る国際的な専門家のグループは科学技術革新パートナーシッププログラムと関連する鍵となる下記の質問を試み提案しています。：

- 個人的パートナーシップの提案の間の潜在的相互作用を生かす組織的努力があるのか？ 持続可能な要因をそれらイニシアチブに付け足すことに世界銀行の役割はあるのか？
- 政治的課題は現在企画・議論中のパートナーシップ・プログラムにおいてどのように言及されるのか？
- 新技術(特に通信技術や新しいメディアの)はどのように入手可能か？また、特に通信教育や共同研究における新しいパートナーシップの形を促進することがどのようにできるか？
- 科学技術革新能力の潜在的到来のための(住居、ICT、visa、やその他の重要なインフラ)知識ネットワークを開発途上国で保持するために必要な基本的ニーズをどのように提供するか？
- 開発途上国の革新的能力開発における民間の役割とは何か？

“開発に関連する科学技術政策の大きな前進は過去10年間に作られました。”と黒川教授は科学政策における一流の専門家と開発コミュニティと議論してのあいだに第4回アフリカ開発会議(TICAD4)と洞爺湖G8サミットにおける彼の経験を引き合いに出し言われました

“持続可能な経済開発の動力としての科学技術の最近のフォーカスは我々は急速なグローバル情報共有の拡大と知識ネットワークにおける利害関係者間の多くの共同作業の積み重ねを必要とする“重層的頭脳の循環”を促進する必要がある、解決には最高のグローバルな専門知識の迅速な展開を必要とし複雑で多部門にわたる開発の課題についての上級の政策立案者を雇用する必要があります。日本は科学技術革新パートナーシップ・イニシアチブのリーダー国の1つであります。そして日本は能力開発のための科学技術革新の使用においてグローバルな影響力を持っています。

日本の持続可能な開発のため科学技術パートナーシップ・イニシアチブはSTI科学技術革新プロジェクトを通しての日本のアフリカ開発への誓約として政策表明であります。このプログラムの目的はクリーン・エネルギーや環境などの科学とビジネスのネットワーク、自然災害予防、感染症の管理や食料の安全保障などの政策にわたるグローバルな課を言及することにつなげる革新的供給システムを利用し新しい知識を習得することです。